

令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立有田中央高等学校清水分校 学校長名：戸川 しをり 

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を最大限に活用した、分校ならではの特色ある学校。 様々な体験を通じて、自然環境保持や社会環境づくりに積極的に関わる生徒。
本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の実態に即したわかる授業を実践し、個々の学力を確かなものにする。 キャリア教育を充実し進路意識を高めるため、個に応じた指導を徹底する。 基本的生活習慣の確立と規範意識高揚のため、身だしなみ・マナー指導を徹底する。 学校開放や地元学校との交流に努め、地域に根ざした学校づくりを推進する。
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数減少にともなう学校行事・特別活動の活性化への工夫 入学生徒の増加に向けて情報発信地域の拡大 進学希望生徒のための補習体制の確立
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	年度末に、生徒・保護者等の学校評価結果を関係者に知らせるとともに、インターネットのホームページに掲載する。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重点目標					年度評価(3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	在籍している生徒は少人数ではあるが、家庭事情、その他の要因で学力差が大きい。従って個に応じた学力向上と基礎学力の定着、また家庭学習習慣をいかにつけさせるかが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 教員が授業改善を積極的に行い、生徒の実情に合った授業づくりが行われているか 生徒の主体的な学習、基礎学力の定着につながる取り組みがなされているか 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善への取り組み ICTを活用した授業への取組 生徒による授業評価を実施し効果的にフィードバックする SHRや放課後を活用した学力向上のための取組 定期的な家庭学習課題の作成 	<ul style="list-style-type: none"> すべての教員がICTを活用した授業を取り入れる 改善・検証会議の実施 学び直し(数学)・漢字学習及び小テストの実施 年間指導計画に基づく家庭学習課題(宿題)の実施 	Teamsを活用した授業に取り組み、全員がある程度活用できるようになった。教材や授業を工夫することで、生徒の学力に応じた教科指導に取り組むことができた。SHRや放課後を利用し、基礎学力定着のための漢字学習や学び直し(数学)への取り組みを実施し、成果を上げることができた。	B	オンライン授業など Teams等の活用法についてさらに研究する必要がある。基礎学力の定着、学力向上が課題で、引き続き個に応じた指導、基礎学力定着のための取組が必要である。また、家庭学習の習慣をつけるような指導が必要である。
2	地域性や情報不足から進路意識に乏しく、メンタル面での弱さを感じられる。町外に出ることが少ないため何事も経験不足であり、将来を視野に入れた自覚促進が課題である。県外を含めた幅広い進路選択を意識させる必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路決定について、生徒・保護者の希望が充分反映されたか 生徒の進路希望の実現に向けた充分な取組がなされているか 講演を聴講する機会を設定しているか 	<ul style="list-style-type: none"> 三者面談等の実施を通じて十分な意思疎通を図る 就職・進学に向け、徹底した面接指導の実施 インターンシップや起業家による講演の実施 進路実現への取組 1年次から継続した週2回の7限補習の実施、就職用問題集への取組 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定率100%の達成 想定問答の作成 管理職による面接指導の実施 生徒の希望する企業にもよるが町外企業でのインターンシップの実施ができていくか 特別補習等の実施 認定テストの実施 	3年生3名が全員進学希望であり、担任・進路指導部が連携を図りながら個人面談を繰り返し実施した。また、進路指導計画に基づき補習・模擬面接等を行い、全教員が役割分担をして指導した。3名とも進路希望を叶えることができた。2年生のインターンシップは生徒の希望により、清水行政局で行った。補習・認定テストについては予定通り実施することができた。	A	離職率を下げるような取り組みが必要である。新3年生は1名であり、現状就職希望であるが、基礎学力の定着が十分でない生徒である。このため、基礎学力を定着させながら学力向上を図る必要がある。また、自分の考えを表現することが苦手なため、コミュニケーション力を向上させる取組も必要である。自分に合った進路を選択できるよう指導を進める。
3	分校であり近隣地域の純朴な生徒が多く、問題行動も少ないが、惰性に流されがちである。さらなる発展を目指す活気づくりや向上心の醸成が課題である。	生徒への指導が全職員一体となっているか	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と連絡を頻繁にとり、生徒の情報について教職員間で共通理解を図る 挨拶の励行、服装指導の徹底 規範意識の向上 地域関係諸機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 常に生徒についての情報交換を行う、特に職員会議では必ず時間をとって行う 校門指導の徹底 授業中のマナー指導 職員・地域との街頭指導 単車通学生への安全教室 	普段から生徒の情報共有をし、職員会議では毎回、生徒全員の詳しい情報交換を行い、一貫した指導・臨機応変な対応を行うことができた。少人数であることを生かしたきめ細やかな指導ができた。不登校生徒についてはSSWとの連携も行った。	B	少人数であるが、不登校等問題を抱えた生徒も在籍している。今後ともSSWの協力を得て地域や関係機関と連携して問題解決にあたりたい。また、校内の特別支援教育委員会を定例化するなど、組織的な取り組みを推進する。
	過疎・少子化が進み、入学してくる生徒数が減少している。分校存続に向けて、地域と連携しながら様々な取組を実践していくことが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある学校にするため、地域と連携した積極的な取組がなされているか 分校での活動に誇りを感じて、帰属意識を高めるための具体的指導が展開されているか 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人的・物的資源を学校の教育活動に取り入れる 高齢者や地域の方々との交流の機会を設け、地域の課題と向き合い、高校生としてできる地域貢献をする 地域小中学校との連携を進め職員・生徒間の交流を図る 情報発信を積極的に行う 他校生徒会との交流を進める 	<ul style="list-style-type: none"> 外部の教育機関との連携授業の実施 学期1回以上地域の事業に参加する 包括連携協定の取り組みを具体化する 学期1回以上の小中学校訪問や職員・生徒間の交流 毎月マンスリータイムズの地域回覧の実施 	地域イベントへの参加に積極的に取り組んできたが、今年度も新型コロナの影響で地域イベントのほとんどが中止となった。そのような中でも、中学校との合同運動会は、規模を縮小して実施することができた。また、中学校の公開授業に複数の教員が参加し、研究協議にも参加した。	B	生徒数の減少に伴い、様々な活動への参加について負担感が増している。取り組みの内容を精査するとともに、地域と協議してイベントの効率化を図りたい。次年度は、文化祭と地域のふるさと祭りの合同開催を検討している。

学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>在校生・保護者を対象に、具体的な項目を挙げたアンケート形式の学校評価を実施した。地元保育所、小・中学校との交流、地域学習、ボランティア活動などの地域との連携を積極的に続けてきた結果、ある一定の評価を頂くことができた。また、少人数を活かした取組については、保護者から「生徒にあった授業をしてもらえて、うれしいです。」との声があった。</p> <p>今後、地域の小学校・中学校の児童生徒数がさらに減少するので、地元の町内だけでなく、他の郡市に分校をアピールし、入学者数を増やしていく取組が必要である。</p>